



気象と気象用語

【5月の気象】

- ▷ この時期は季節の変わり目で、天気が変わりやすく、気温も大きく変化します。晴天が続き、空気の乾燥や少雨で農作物に被害が発生することもあるほか、低気圧が発達しながら日本海を通過することにより、広い範囲で天気が急激に変わり、荒れた天気となることもあります。
- ▷ 上空に冷たい空気が入ると大気の状態が不安定となり、竜巻などの激しい突風が発生しやすくなるほか、雷とともに“ひょう”が降ることもあります。

農業に影響するこの時期の気象と天候

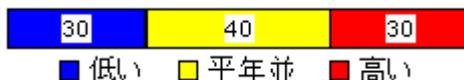
現象の種類	状況や要因	注意すべき事項	着目してほしい情報
晩霜	高気圧に覆われた朝の放射冷却	農作物の管理	霜注意報
乾燥	高気圧に覆われて空気が乾燥	火の取り扱い	乾燥注意報
強風	低気圧の発達などにより気圧の傾きが大きくなる	農業施設の管理 火の取り扱い	気象情報 強風注意報、暴風警報
落雷 竜巻・突風 降ひょう	上空に寒気が入り、大気の状態が不安定	安全な場所へ避難 農作物の管理	気象情報、雷注意報、 竜巻注意情報、 ナキャスト（雨雲の動き・雷・竜巻）
高温	暖気の流入と日照	農作物の管理 健康管理	天気予報、※熱中症警戒アラート 各現象に対する天候情報、 2週間気温予報、早期天候情報、 週間天気予報、季節予報
少雨 長雨（多雨） 日照不足 長期の低温長期の高温	平年から大きくかけ離れた気象状況が数日間またはそれ以上に長く続く		

※熱中症警戒アラートは、令和3年4月28日から全国を対象として新たに情報の発表を開始します。

【気象用語】「階級区分」とは

週間天気予報、2週間気温予報、季節予報では、対象期間における平均気温、降水量、日照時間について、平年値と比較して「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級ごとに確率を用いて予報します。

例えば、下図の平均気温予報の場合、左から順に平均気温が「低い」確率が30%、「平年並」の確率が40%、「高い」確率が30%の予報であり、平均気温が「平年並」となる確率が最も高く、「平年並の見込み」となります。



季節予報における確率予報の説明

予報 低い（少ない）：平年並：高い（多い）	見込み（最も出現する確率の高い階級）
高い（多い） 確率が50%以上	高い（多い）
(20：40：40)	平年並か高い（多い）
平年並の確率が50%以上	平年並
(40：30：30) (30：40：30) (30：30：40)	平年並
(40：40：20)	平年並か低い（少ない）
低い（少ない） 確率が50%以上	低い（少ない）

※(20：30：50)と(10：20：70)の平均気温の予報は、いずれも「高い見込み」ですが、(10：20：70)の方がより確度の高いものとなります。

なお、旬や月の天候の経過について階級区分を用いて表す場合など、実況値による統計では、「低い」または「高い」の階級のうち、さらにそれぞれ両端10%の範囲を「かなり低い」または「かなり高い」という階級を用いて表します。